

# 第3章 愛媛の声

## 2. 愛媛県の地域の声 — 各地域での意見交換会によせられた声

### 地域の声を聞くということ

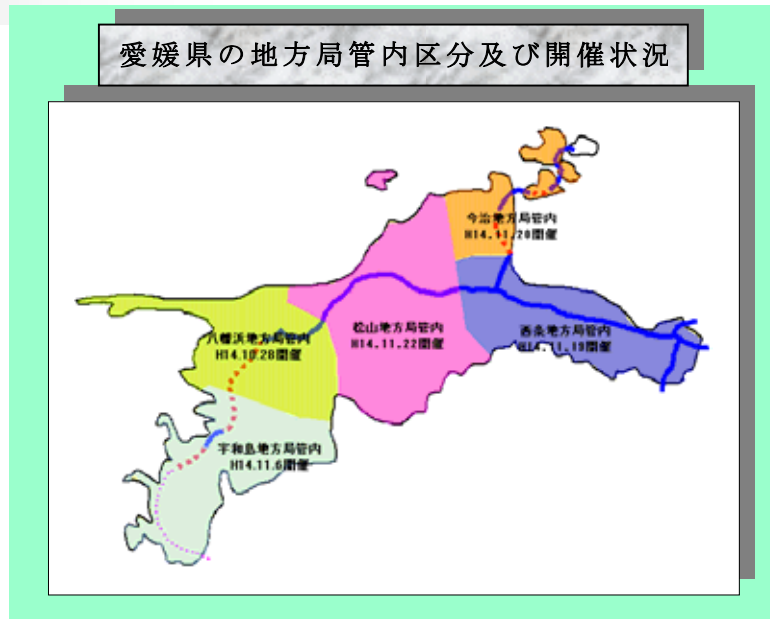
愛媛県では、幅広い県民の声を聞き、各地域の意見を積極的に反映した道づくりを目指す目的から、**地方局ごとに「道路に関する意見交換会」を開催しました。**

意見交換会では、各地域から道づくりへの積極的な意見をいただくことができ、地域の活性化における道路への期待の大きさがうかがえました。

5つの地域で開催された意見交換会においては、高速道路に関する意見、産業や観光と道路の関係についての意見、渋滞対策に関する意見、道路線形や幅員の狭さに対する問題意識など多岐にわたる部分で共通の意見をいただきました。なかでも、**高速道路に関するニーズ、とりわけ高速道路の早期整備と高速道路ICへのアクセス道路の整備への要望が強く、高速道路による広域交流の促進が、各地域における暮らしや産業にとって重要な意味を持つことを再認識いたしました。**

今回の意見交換会では、各地域が抱える個別の問題や課題だけでなく、全地域に共通したニーズや課題が明らかになるなど、今後の道路整備の進め方を考えるうえで非常に有意義な会となりました。

### ●意見交換会の様子



**全地域に共通したニーズ、認識すべき共通の課題は**

- 高速道路整備と高速道路へのアクセス性向上
- 産業インフラとしての道路の整備が必要であること
- 身近な道路に整備の必要な箇所が多く残されていること

●意見交換会の様子



●意見交換会でいただいた地域の声

- 高速道路の整備は必要。あわせてICへのアクセス道路の整備も重要。
- 高度医療機関の搬送のためにも、高速道路の早期整備は必要。
- （南予は）国道56号1本しかない。「高速道路」が是非とも必要。
- 地方から松山までのとぎれることない、高速道路の整備をして欲しい。
- 「産業インフラ」（道路、物流基地等）が弱い。渋滞による経済損失が大きい。
- 地方の街中でも渋滞は発生している。渋滞を解消して欲しい。
- 観光地への道路の整備状況が悪いと感じる。
- 役場まで30分以上かかる集落もある。せめて「離合ができる道路」が欲しい。
- 最近の救急医療では、救急搬送中の応急措置が非常に重要であるが、幅員の狭さ、カーブが多いこと等からその処置が困難である。患者搬送中の苦情も多い。
- 救急車両は大型化しており、進入不可の道路がある。救急搬送は、ほとんどは、クルマによる搬送で、現場サイドでは時間「1分」の単位にこだわる。
- 道路機能には「避難路」、「延焼防止」の機能もあり、南海地震を考えると、1本の道では不安。代替となる道路が必要（命の道）。
- 歩道が未整備のため、通学時に不安、特に「雨」の日（傘）。
- ワダチの解消等、日常の維持管理も重要である。「道路里親制度」をもっとPRするべき。
- 「へんろ道」は四国全体の観光資源（財産）であり、道文化として、地域として後世に残すべき財産と考える。

.....etc